

【水の里の旅コンテスト2017 応募企画】

【一般部門】

川上村

吉野川源流 水と森と神秘の世界

樹と水と人の共生

観光地域：奈良県吉野郡川上村

【 日 程 】	日帰り ・ 1泊2日		
【実施時期】	通年		
【催行人員】	25名（最少催行人員： 15名）	【お勧めする旅行者層】	
【旅行代金】	日帰りツアー 2,400円～ 1泊2日ツアー 15,900円～ (大人1名)	【内 訳】	
		ホテル杉の湯宿泊費（一泊二食）：13,500円 水源地の森ツアー：大人 2,000円 小中高生 900円 森と水の源流館 入館料：400円	
【 企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント） 】			
・川上村は、豊かな水の生まれる吉野川源流の村。森に育まれたひとしずくの水は川をつくり、あらゆる生命を育み支えてくれています。川上村には大滝ダムと大迫ダムという2つのダムがあります。また、水を蓄える“森”は「緑のダム」と呼ぶことができます。私たちは、2つのダムが共生することによる水源地の村づくりを推進しています。かけがえのない水と森を守り育てる為、1996年に「川上宣言」を発表、1999年に水源地にある原生林の森740haを購入しました。 ・村の中心には白鳳4（675）年創建と伝わる、丹生川上神社上社（にうかわかみじんじゃかみしゃ）があります。平安時代から国にとって大切な神社と認められ、雨が降って欲しい時には黒馬を、長雨が止んで欲しい時には白馬を納められてきました。これが現在の「絵馬」の発祥といわれています。 ・吉野川支流に入ると古事記や万葉集に名前が出る名瀑をご覧になれます。 平安時代には「二十二社」の一つにも数えられる由緒正しい神社と吉野川の源流の森、冬には滝の全体が凍ることもある御船の滝、洞窟の中を流れる不動滝、水源地の村ならではのツアーです。ご宿泊の方はホテル杉の湯の美味しいお料理と温泉で心と身体を癒してください。夜、お天気が良ければ星空観察ガイドも。吉野杉の森が作る澄み切った空気の中で、満点の星空をご堪能ください。 ・森と水の源流館で実施している「水源地の森ツアー」、防災ステーションで実施している「豪雨体験」や「防災」に関する学習等、村の施設と観光資源を繋いで自然と水を守ることの大切さを伝えたいと考えます。			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
森と水の源流館スタッフが同行します。森の生物、植物に精通しており、森の中での様々な危険を回避します。		緑の森と清流を眺め、鳥の鳴き声に耳を澄まし、吉野杉やヒノキの香り、美味しい水を味わい、苔に触れ、自然の素晴らしさを五感で感じて頂ける旅作りをお手伝いします。	
【 企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【 企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① 森と水の源流館	水源地の森ツアー同行	⑤ 柏木観光協会（不動窟）	洞窟見学
② 大滝ダム学べる防災ステーション	大滝ダムと防災について	⑥	
③ 丹生川上神社上社	水と龍神様について	⑦	
④ ホテル杉の湯	宿泊、食事	⑧	
【特記事項】	「水源地の森」は一般の方の入山はお断りしています。普段は入ることができない、手つかずの原生林の森への特別ご招待です。		
【催行実績】	有り		

【 行 程 表 】	
1 日 目	森と水の源流館 大パノラマシアターで森と水について学習 （1 時間） 三之公（さんのこう）水源地の森ツアー（3 時間～） 宿泊：ホテル杉の湯 ■日帰り、1 泊 2 日ツアー 共通
2 日 目	・大滝ダム・学べる防災ステーション見学【豪雨体験】 ・御船の滝（冬には凍結し氷瀑と姿を変えることもある高さ 50m の滝） ・不動窟（洞窟の中を流れる水量豊かな滝を見学） ・龍神総本宮 丹生川上神社上社 参拝

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】		
【 ポイント 1 】	【 ポイント 2 】	【 ポイント 3 】
		
【コメント】 森と水の源流館 日本最大級のパノラマシアターで、源流の森を体験できます。 縄文時代から営まれてきた自然と共生する暮らしから、林業の発祥と発展を経て「樹と水と人の共生」に取り組む現在の川上村にいたるまで、時空を超えて紹介します。	【コメント】 水源地の森 ジブリの森と呼ばれることもある、500 年手つかずの原生林。村が購入、保全しています。（一般の方の入山はお断りしています）	【コメント】 ホテル杉の湯 美味しい料理と温泉が魅力。 天然岩の露天風呂「金明の湯」と檜づくりの「銀嶺の湯」が人気です。
【 ポイント 4 】	【 ポイント 5 】	【 ポイント 6 】
		
【コメント】 御船の滝 冬場、寒い日が続くと滝全体が凍ることも。高さ 50m の滝が凍る姿は絶景です。 古事記には、熊野から八咫鳥に導かれて吉野川の下流に出てきた神武天皇が、尾の生えた人が光る井戸から出て来て「井氷鹿（いひか）」と名乗ったとあります。井氷鹿が御船の滝で矢を納め、神武天皇の勝利を祈願したといわれています。	【コメント】 不動窟 役行者が発見し、修験道の裏行場であったと伝わる。洞窟の中を大きな滝が流れます。滝の轟音を聞きながら、暗闇を進み、恐怖に打ち克つ修行であったそうです。 「不動の水」は奈良の名水 やまとの水の一つに選ばれています。	【コメント】 龍神総本宮 丹生川上神社上社 平安時代に二十二社に数えられる。水と雨を司る龍神様をお祀りしています。 平安時代の法令集「延喜式」には「馬を奉納して雨のお祈りをせよ」と記されています。 馬を奉納するように定められた神社は、京都の貴船神社と丹生川上神社の 2 社のみ。絵馬発祥の神社といわれています。